

課題名称：				
評価者：				
評価項目	評価内容	評価基準	評価入力	評価者コメント
SIP要件	要件（別紙）を満たしているか	○ or ×		
A-1 意義の重要性、SIP制度との整合	・課題全体を俯瞰的にとらえ、Society5.0の実現に向けて将来像を描いているか。 ・技術開発のみならずルール整備やシステム構築などに必要な戦略が検討され、SIP制度との整合性が図れているか。			
A-2 ミッションの明確化	・将来像の実現に向けたミッションが 明確 となっているか。 ・関係省庁を巻き込んだ協力体制の下に、課題の解決方法が特定され、ミッション遂行が実現可能なものであるか。	5～0点での評価(3を基準に加点/減点)。		
A-3 目標設定・全体ロードマップ、その他の社会実装に向けた戦略の妥当性	・ミッションを達成するために、現状と課題を調査し、ロジックツリー等を活用し、社会実装に向けて、技術だけでなく、事業、制度、社会的受容性、人材を含む 5つの視点で、必要な取組を抽出 されているか。 ・抽出した取組について、既存の産学官での取組を把握した上で、SIPの要件及び本評価基準を踏まえ、SIPの研究開発テーマを特定しているか。 ・ SIP終了時の達成目標 が設定されており、 実現可能 なものであるか ・SIPの研究開発テーマを含む必要な取組について、社会実装に向けたロードマップを作成し、技術だけでなく、事業、制度、社会的受容性、人材を含む 5つの視点で、戦略的かつ明確 になっているか。また、これら 5つの視点の成熟度レベルを活用 しながら、指標が計測量として用いられ、 進捗度が可視化 されているか。 【必須要素】総合知の観点で、5つの視点の成熟度レベルを活用し、必要な取組の抽出と必要な専門知、取組の進捗度の可視化を行うことを必須とする。 ・データプラットフォームの標準化戦略を見据え、全体のデータアーキテクチャーを見据えたデータ戦略は設定されているか。 ・スタートアップに関する戦略は設定されているか。	5 (S) 極めて挑戦的な高度な課題目標が設定されている。 4 (A+) 高度な課題目標が設定されている。 3 (A) 課題目標の設定が適切である。 2 (A-) 課題目標の設定が概ね適切であるが、いくつか弱点がある。 1 (B) 課題目標の設定が不十分で、深刻な弱点がある。		
A-4 個別の研究開発テーマの設定及びその目標と裏付けの明確さ	・ RFIの内容を吟味 し、個別の研究開発テーマの設定が決め打ちではなく、 社会課題を基に一定の範囲から絞り込まれている か。 ・個別の研究開発テーマの設定は国際競争力調査や、市場・ニーズ調査、有識者や関係者へのヒアリングなど、 エビデンスベース での理由で裏打ちされているか。 ・個別の研究開発テーマの目標及び工程表は明確であり、実現可能なものであるか。 【必須要素】5つの視点の成熟度レベルを活用し、必要な取組の抽出と進捗度の可視化を行うことは必須とする。 ・個別の研究開発テーマの目標は 課題全体の目標(A-3)を満足 しているか。	0 (C) 課題目標の設定が極めて不十分、もしくは情報が不足しており評価不可能である。		
A-5 研究開発テーマの設定目標に対する達成度	・個別の研究開発テーマについて、 当該年度の設定目標に対する達成度（進捗状況） は計画通りか。（計画変更となった場合、当該進捗状況に至る理由を含む。） 【必須要素】達成度(進捗状況)が把握できるように数値化された情報が含まれていることを必須とする。 ・得られた成果の 新規の学術的・技術的価値 は何か。 ・得られた成果は 課題全体の目標 に対してどの程度貢献しているか。	5～0点での評価(3を基準に加点/減点)。 5 (S) 設定された目標を達成し、社会実装も十分見込まれており、想定を大幅に上回る成果が得られている。		
A-6 社会実装に向けた取組状況	・知財戦略や国際標準戦略などを含む 事業戦略、規制改革等の制度面の戦略、社会的受容性の向上や人材の戦略 は設定され、その取組状況は計画通りか。（計画変更となった場合、当該進捗状況に至る理由を含む。） ・ データ戦略の取組状況 は計画通りか。（計画変更となった場合、当該進捗状況に至る理由を含む。） ・ スタートアップに関する戦略の取組状況 は計画通りか。（計画変更となった場合、当該進捗状況に至る理由を含む。）	4 (A+) 設定された目標を達成し、社会実装も見込まれるなど、想定以上の成果が得られている。 3 (A) 設定された目標を概ね達成しており、概ね当初の予定どおりの成果が得られている。		
A-7 研究成果の社会実装及び波及効果の見込み	・研究成果によって 見込まれる効果あるいは波及効果 が明確であるか。（科学技術の進展、新製品・新サービス等への展開、市場への浸透や社会的受容性への影響、政策への貢献、人材育成への貢献など。定量的表現が望ましい。） 【必須要素】「見込まれる効果あるいは波及効果」に対して、潜在的な障壁が特定されていることを必須とする。 ・(A-5)(A-6)を踏まえて、 技術、事業、制度、社会的受容性、人材の5つの視点 からロジックツリー等を用いて 研究成果の社会実装への道筋 が明確に示されているか。 ・開発する技術の優劣に関する国際比較、当該技術の強み・弱み分析、国際技術動向の中での位置づけなど、 グローバルベンチマークの結果 が示されているか。	2 (A-) 目標を概ね満たしているが、いくつか弱点があり、予定を下回る成果となっている。 1 (B) 目標の達成が不十分で、深刻な弱点があり、予定を大幅に下回る成果となっている。		
A-8 対外的発信・国際的発信と連携	・課題の意義や成果に関して 効果的な対外的発信 の計画が検討され、実施されているか。 ・ 国際的な情報発信や連携の取組 の進捗はあるか。	0 (C) 目標の達成が極めて不十分、もしくは情報が不足しており評価不可能である。		
A-9 その他	・課題の特性や状況に応じ、上記の(A-1)～(A-8)以外に、課題目標の達成度と社会実装の観点から評価すべきこと（プラス評価になること）があれば追加可。			
A:課題目標の達成度と社会実装	(A-1)～(A-9)の各評価入力の合計値の表示（加重式配点を考慮）	85～0点での表示(自動で計算し表示)	0	

- 次期SIPの課題の要件
- ①Society5.0の実現を目指すものであること
 - ②社会的課題の解決や日本経済・産業競争力にとって重要な分野であること
 - ③基礎研究から社会実装までを見据えた一貫通貫の研究開発を推進するものであること
 - ④府省連携が不可欠な分野横断的な取組であって、関係府省の事業との重複がなく、連携体制が構築され、各府省所管分野の関係者と協力して推進するものであること
 - ⑤技術だけでなく、事業、制度、社会的受容性、人材に必要な視点から社会実装に向けた戦略を有していること
 - ⑥社会実装に向けた戦略において、ステージゲート（2～3年目でのテーマ設定の見直し）・エグジット戦略（SIP終了後の推進体制）が明確であること
 - ⑦オープン・クローズ戦略を踏まえて知財戦略、国際標準戦略、データ戦略、規制改革等の手段が明確になっていること
 - ⑧産学官連携体制が構築され、マッチングファンドなどの民間企業等の積極的な貢献が得られ、研究開発の成果を参加企業が実用化・事業化につなげる仕組みを有していること
 - ⑨スタートアップの参画に積極的に取り組むものであること

第3期SIP課題の評価シート【B.課題マネジメント・協力連携体制】

課題名称：				
評価者：				
評価項目	評価内容	評価基準	評価入力	評価者コメント
B-1	課題目標を達成するための実施体制	・ P D、S P D、研究推進法人の役割分担 と、それに見合う配置が図られているか。	5～0点での評価(3を基準に加点/減点)。 5 (S) 極めて優れた課題マネジメント・協力連携体制が推進されている。	
		・ メンバーの配置や役割分担について明確に構造化が図られているか。知財・国際標準・規制改革に関する専門家や、社会実装に関する業務の担当者等が配置されているか。		
		・ 研究開発テーマ設定時の前提条件の変更や研究成果の達成状況に応じて、研究開発テーマの方向性の再検討やアジャイルな修正が生じた際に、関係者間で合意形成を図る流れが明確になっているか。		
		・ 消費者視点での社会的受容性の観点や多様な観点から運営を推進するため、S P Dや研究開発テーマ責任者等に若手や女性など ダイバーシティを考慮したチーム構成計画 としているか。 【必須要素】ダイバーシティ考慮したチーム構成計画は必須とする。		
B-2	府省連携	・ 関係府省の担当者を巻き込み、 各府省の協力・分担が明確な体制 になっているか。	4 (A+) 優れた課題マネジメント・協力連携体制が推進されている。	
		・ 各府省等で実施している関連性の高い研究開発プロジェクトとの連携が図られているか。		
		・ 関係省庁の事業との関係性をマッピングするなどの整理 がなされ、重複が無いよう SIP以外の事業との区分け は出来ているか。		
B-3	産学官連携、スタートアップ	・ 社会実装に向けた産業界の意欲・貢献を促すべく、 産学官連携が機能する体制 が構築されているか。研究成果の利用者は明確となっているか。	3 (A) 適切な課題マネジメント・協力連携体制が推進されている。	
		・ マッチングファンド方式の適用に向けた検討がされているか。 【加点要素】マッチングファンドの取組が推進されていれば加点対象とする。		
		・ 本来、民間企業で行うべきものに国費を投じていないか。		
		・ マネジメント体制の中に スタートアップ関係者が配置 されているか。		
B-4	課題内テーマ間連携	・ 研究開発テーマ間での連携 やシナジー効果について検討され、実施されているか。マネジメント体制の中に研究開発テーマ間の連携に必要な担当者が配置されているか。	課題マネジメント・協力連携体制が概ね適切であるが、いくつか弱点がある。	
B-5	SIP課題間連携	・ 他のSIP課題間での連携 やシナジー効果について検討され、実施されているか。マネジメント体制の中に他のSIP課題間の連携を担当する者が配置されているか。 【必須要素】他のSIP課題間での連携の検討は必須とする。	1 (B) 課題マネジメント・協力連携体制が不十分で、深刻な弱点がある。	
B-6	データ連携	・ 研究開発テーマ間や、他のSIP課題間でのデータ連携 が検討・実施されているか。	0 (C) 課題マネジメント・協力連携体制が極めて不十分、もしくは情報が不足しており評価不可能である。	
		・ 既存の データプラットフォームとの連携 の可能性は検討されているか。 【必須要素】データ連携の検討（DMPの策定、DMPに基づく管理対象データの適切な保存、オープン・アンド・クローズ戦略に基づく公開・共有の検討）は必須とする。		
B-7	業務の効率的な運用	・ オンラインツールの活用 など業務の効率的な運用が実施されているか。 ・ ベストプラクティスの共有、活用 などが実施されているか。		
B-8	その他	・ 課題の特性や状況に応じ、上記の(B-1)～(B-7)以外に、マネジメントの観点から評価すべきこと（プラス評価になること）があれば追加可。		
B:課題マネジメント・協力連携体制		(B-1)～(B-8)の各評価入力の合計値の表示（加重式配点を考慮）	75～0点での表示(自動で計算し表示)	0

次期SIPの課題の要件

- ①Society5.0の実現を目指すものであること
- ②社会的課題の解決や日本経済・産業競争力にとって重要な分野であること
- ③基礎研究から社会実装までを見据えた一貫通貫の研究開発を推進するものであること
- ④府省連携が不可欠な分野横断的な取組であって、関係府省の事業との重複がなく、連携体制が構築され、各府省所管分野の関係者と協力して推進するものであること
- ⑤技術だけでなく、事業、制度、社会的受容性、人材に必要な視点から社会実装に向けた戦略を有していること
- ⑥社会実装に向けた戦略において、ステージゲート（2～3年目でのテーマ設定の見直し）・エグジット戦略（SIP終了後の推進体制）が明確であること
- ⑦オープン・クローズ戦略を踏まえて知財戦略、国際標準戦略、データ戦略、規制改革等の手段が明確になっていること
- ⑧産学官連携体制が構築され、マッチングファンドなどの民間企業等の積極的な貢献が得られ、研究開発の成果を参加企業が実用化・事業化につながる仕組みを有していること
- ⑨スタートアップの参画に積極的に取り組むものであること

第3期SIP課題の評価シート【総合評価】

課題名称：				
評価者：				
総合評価				
評価項目	評価内容	評価基準	評価表示	評価者コメント
A:課題目標の達成度と社会実装	「A群(A-1)～(A-9)」と「B群(B-1)～(B-8)」の評価の合計値を基に、自動でランクを表示。 総合評価としてのコメントがあれば右欄に記載する。	S: 144点以上(得点率90%以上) A+: 128点以上144点未満(得点率80%～90%) A: 96点以上128点未満(得点率60%～80%) A-: 64点以上96点未満(得点率40%～60%) B: 32点以上64点未満(得点率20%～40%) C: 32点未満(得点率20%未満)	0	
B:課題マネジメント・協力連携体制	※満点160点。A,B群の全ての項目を「3点」で評価した場合の合計値(96点:得点率60%)を基準値とし、6段階のランク付け(S～C)を設定している。 ※得点率とは「合計値／満点(160点)」として定義している。			
サブ課題に対する評価				
評価項目	評価内容	評価例	評価	
サブ課題1 「○○○○○ ○○○○」	サブ課題ごとに、研究開発テーマの進展や内容に応じて予算要求額の妥当性を評価する。 特に、予算必要額に関連のあるA-4「個別の研究開発テーマの設定及びその目標と裏付けの明確さ」、A-5「研究開発テーマの設定目標に対する達成度」を中心に、計画性、進捗度、周辺環境（海外の市場動向、市場の急速な拡大、etc）より評価。	右の評価欄にコメントを記載。 【評価文章の例】 例1）評価加算を十分に配分し、サブ課題の推進を強力に加速すべき。 例2）前年度並みの推進を行うべき。 例3）基礎予算程度で推進すべき		
サブ課題2 「○○○○○ ○○○○」				
サブ課題3 「○○○○○ ○○○○」				
サブ課題4 「○○○○○ ○○○○」				
	(サブ課題の数に応じて、上枠を拡張)			